

令和元年度県民健康調査「健康診査」 (16歳以上) 結果報告

<補足事項>

※16～39歳、40～64歳、65歳以上の3つの年齢に区分し、グラフ化した。

※全く同じ母集団ではなく、経年的な変化を比較することが出来ないため、断定的なことは言えない。

※集計結果の表章記号の規約は、厚生労働省の人口動態調査と同様に表記した。

計数のない場合

—

比率が微小(0.05未満)の場合

0.0%

※参考資料

平成23～26年度 ; 第21回検討委員会資料3-2「健診項目別受診実績基礎統計表」

平成27年度 ; 第26回検討委員会資料3-2「健診項目別受診実績基礎統計表」

平成28年度 ; 第30回検討委員会資料2-3「健診項目別受診実績基礎統計表」

平成29年度 ; 第34回検討委員会資料2-3「健診項目別受診実績基礎統計表」

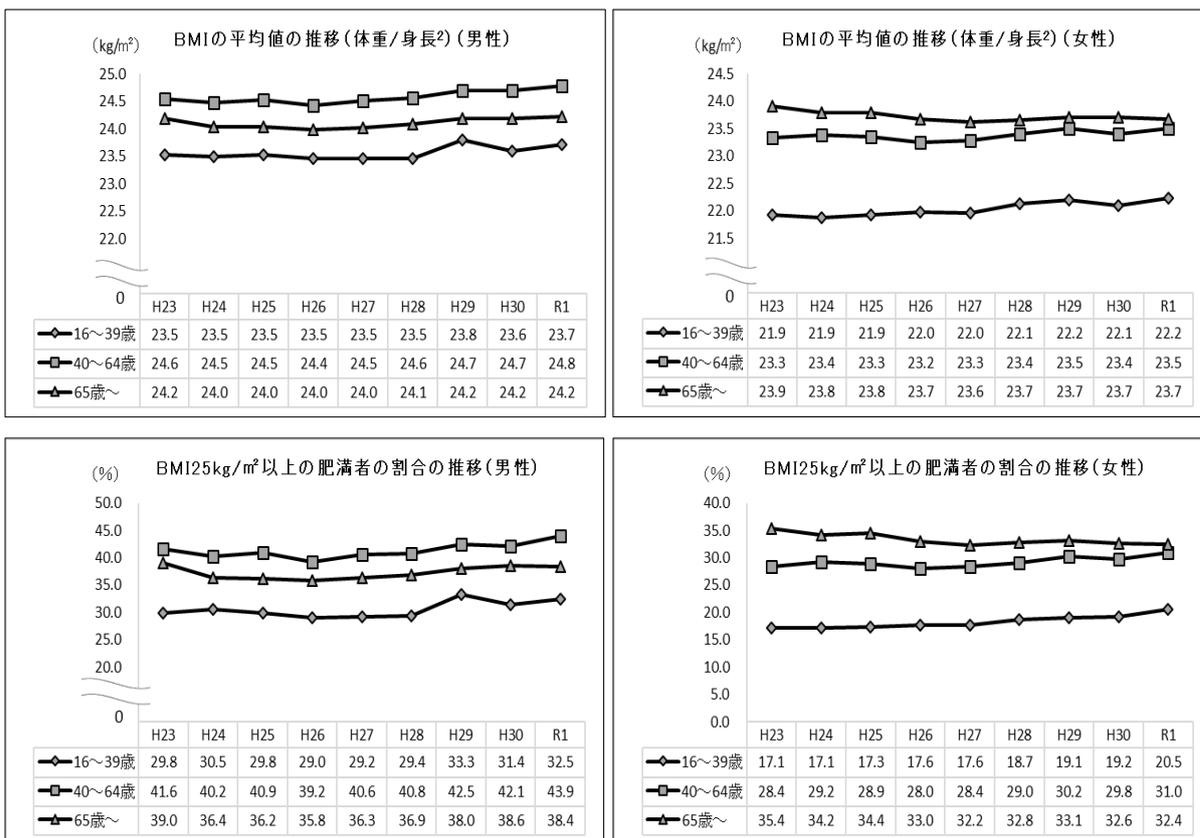
平成30年度 ; 第37回検討委員会資料4-4「健診項目別集計結果」

身体検査 (BMI)

1 結果

BMI25kg/m²以上の男性の割合は、全ての年齢層で平成28年度に比べ平成29年度に増加し、令和元年度にかけては大きな変化はみられなかった。

BMI25kg/m²以上の女性の割合は、16歳～39歳で平成23年度から令和元年度にかけて増加傾向がみられた。40～64歳は、平成23年度に比べ令和元年度でやや増加する傾向がみられ、65歳以上は、平成23年度に比べ令和元年度でやや減少する傾向がみられた。



2 項目の説明 (BMI)

身長と体重の測定値から BMI を算出することで、肥満度をみます。

3 参考基準値 (集団健診・個別健診で使用しているもの)

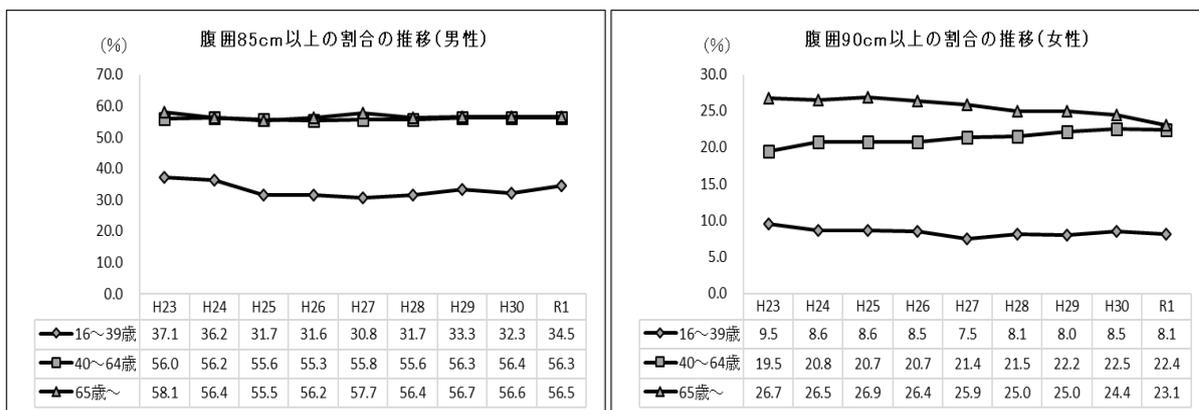
項目	判定区分		異常	単位
	基準範囲内	軽度異常		
BMI (体格指数)	18.5～24.9	18.4 以下 25.0 以上	—	kg/m ²

身体検査（腹囲）

1 結果

腹囲 85.0cm 以上の男性の割合では、16～39 歳では平成 23 年度から平成 25 年度にかけて減少傾向がみられたが、平成 26 年度以降は大きな変化はみられなかった。

腹囲 90.0cm 以上の女性の割合では、40～64 歳では平成 23 年度から平成 30 年度にかけて増加傾向がみられたが、令和元年度にかけては大きな変化はみられなかった。



2 項目の説明（腹囲）

腹囲はメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の判定基準となります。

3 参考基準値（集団健診・個別健診で使用しているもの）

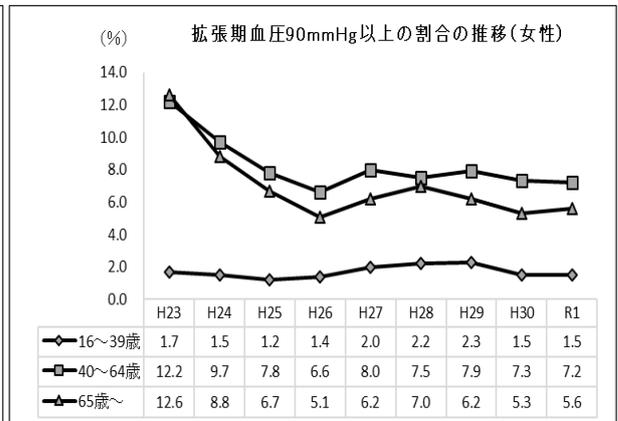
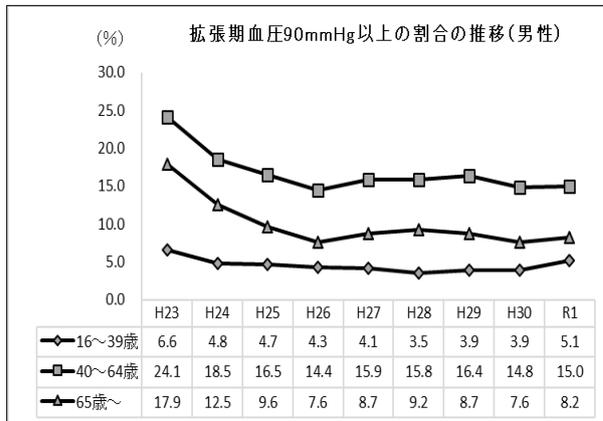
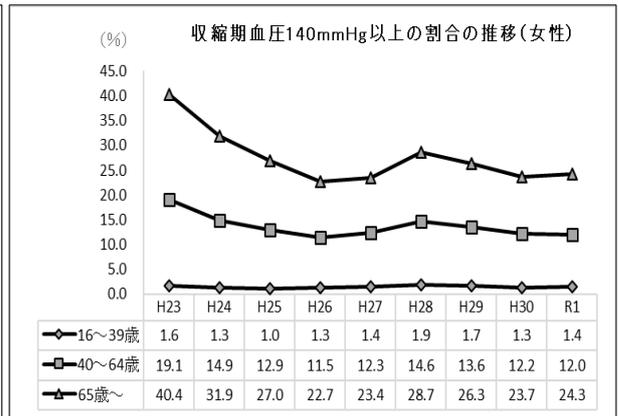
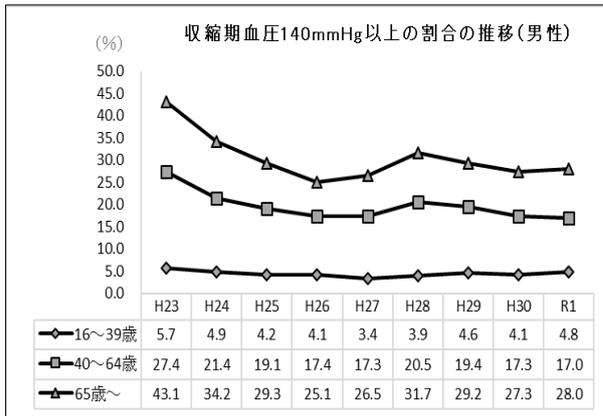
項目	判定区分	基準範囲内	軽度異常	異常	単位
腹囲	男	84.9 以下	85.0 以上	—	cm
	女	89.9 以下	90.0 以上	—	

身体検査（血圧）

1 結果

収縮期血圧 140mmHg 以上の割合は、40 歳以上の男女ともに、平成 23 年度から平成 26 年度まで減少傾向がみられた。平成 27 年度から平成 28 年度にかけては増加傾向がみられ、その後、40～64 歳については、令和元年度にかけて減少傾向がみられた。

拡張期血圧 90mmHg 以上の割合は、40 歳以上の男女ともに、平成 23 年度から平成 26 年度まで減少傾向がみられたが、平成 27 年度以降は大きな変化はみられなかった。一方、16～39 歳の男性において、平成 30 年度から令和元年度にかけて増加傾向がみられた。



2 項目の説明（血圧）

血圧の状態を確認します。高血圧症などを見つけます。

3 参考基準値（集団健診・個別健診で使用しているもの）

項目	判定区分			単位
	基準範囲内	軽度異常	異常	
収縮期(最高)血圧	129 以下	130～139	140 以上	mmHg
拡張期(最低)血圧	84 以下	85～89	90 以上	

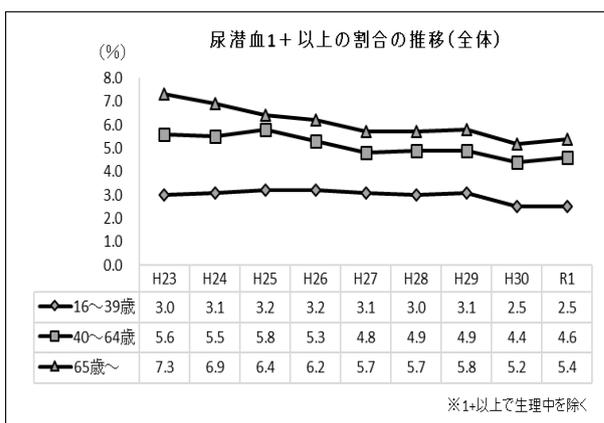
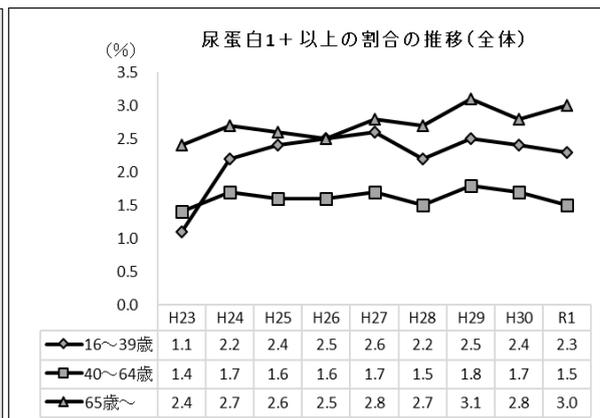
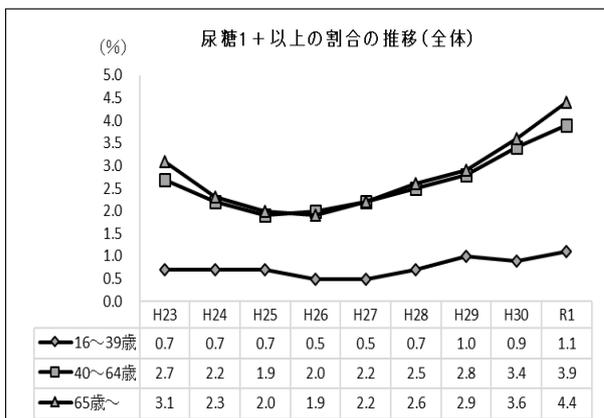
尿検査（尿糖、尿蛋白、尿潜血）

1 結果

尿糖 1+以上の割合は、40 歳以上において、平成 27 年度から増加傾向がみられた。

尿蛋白 1+以上の割合は、16～39 歳の年齢区分において、平成 23 年度から令和元年度まで増加傾向がみられた。

尿潜血 1+以上の割合は、40 歳以上では、平成 23 年度から令和元年度まで減少傾向がみられた。



2 項目の説明（尿糖、尿蛋白、尿潜血）

尿糖は、糖尿病を見つける手がかりとなります。

尿蛋白は、腎臓の病気を見つける手がかりとなります。

尿潜血は、腎臓や尿管、膀胱の病気を見つける手がかりとなります。

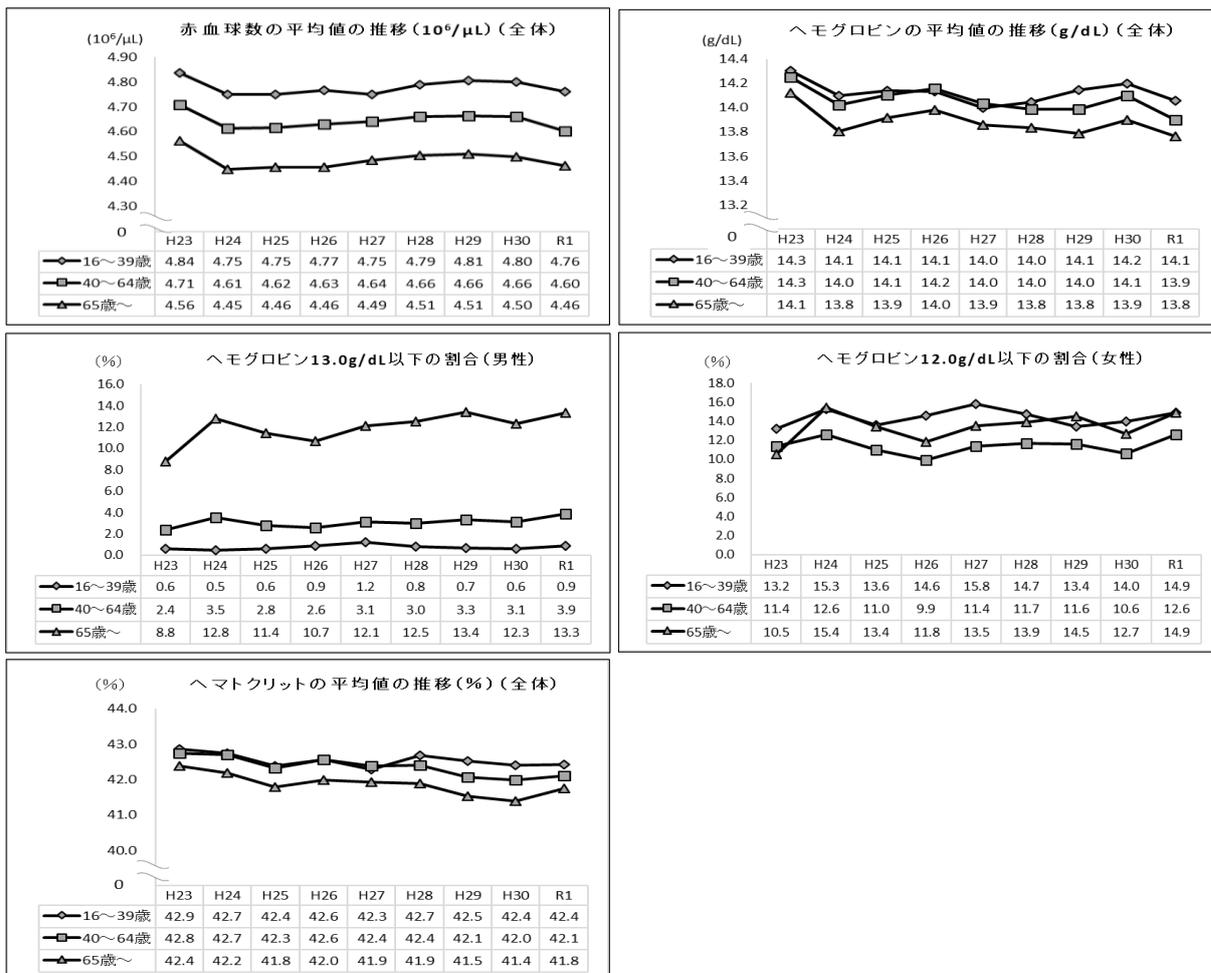
3 参考基準値（集団健診・個別健診で使用しているもの）

項目	判定区分	基準範囲内	軽度異常	異常
尿糖		(-)	(±)	(+) 以上
尿蛋白		(-)	(±)	(+) 以上
尿潜血		(-)	(±)	(+) 以上

末梢血液検査（赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット）

1 結果

赤血球数およびヘモグロビンの平均値は、全ての年齢区分で平成 23 年度から平成 24 年度にかけて減少がみられたが、平成 25 年度には増加し、その後は大きな変化はみられなかった。ヘモグロビン 13.0g/dL 以下の男性の割合は、65 歳以上で平成 23 年度から平成 24 年度にかけて増加し、その後は横ばいの傾向がみられた。12.0g/dL 以下の女性の割合は、65 歳以上で平成 23 年度から平成 24 年度にかけて増加し、その後は減少と増加を繰り返す傾向がみられた。ヘマトクリットは、全ての年齢区分において、大きな変化はみられなかった。



2 項目の説明（赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット）

貧血の種類と程度をみます。

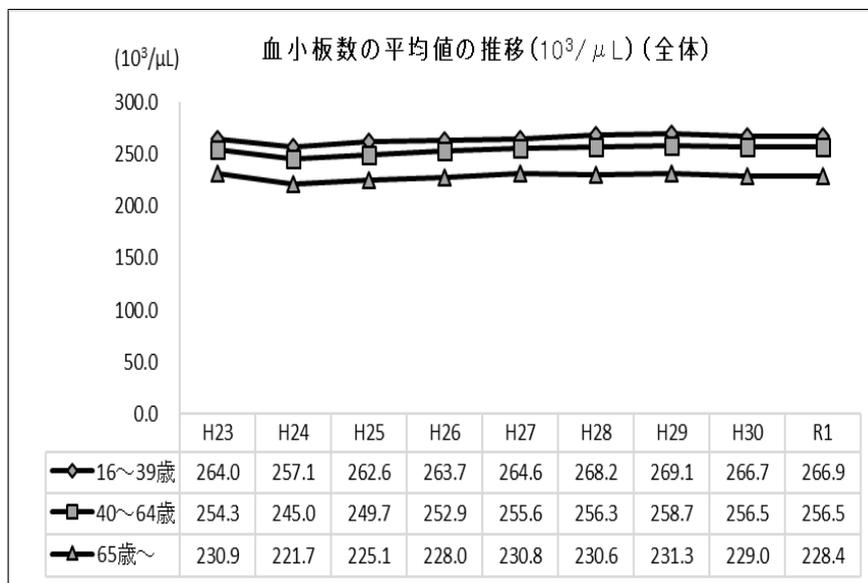
3 参考基準値（集団健診・個別健診で使用しているもの）

項目	判定区分	基準範囲内	軽度異常		異常		単位
	男	女	男	女	男	女	
赤血球数	男	4.00~5.79	3.70~3.99	5.80以上	3.69以下		×10 ⁶ /μL
	女	3.70~5.49	3.40~3.69	5.50以上	3.39以下		
ヘモグロビン	男	13.1~17.9	12.1~13.0		12.0以下	18.0以上	g/dL
	女	12.1~15.9	11.1~12.0		11.0以下	16.0以上	
ヘマトクリット値	男	38.0~54.9	36.0~37.9	55.0以上	35.9以下		%
	女	33.0~47.9	29.0~32.9	48.0以上	28.9以下		

末梢血液検査（血小板数）

1 結果

血小板数の平均値では、全ての年齢区分で、平成 23 年度から令和元年度まで大きな変化はみられなかった。



2 項目の説明（血小板数）

感染症や白血病などを見つける手がかりとなります。

3 参考基準値（集団健診・個別健診で使用しているもの）

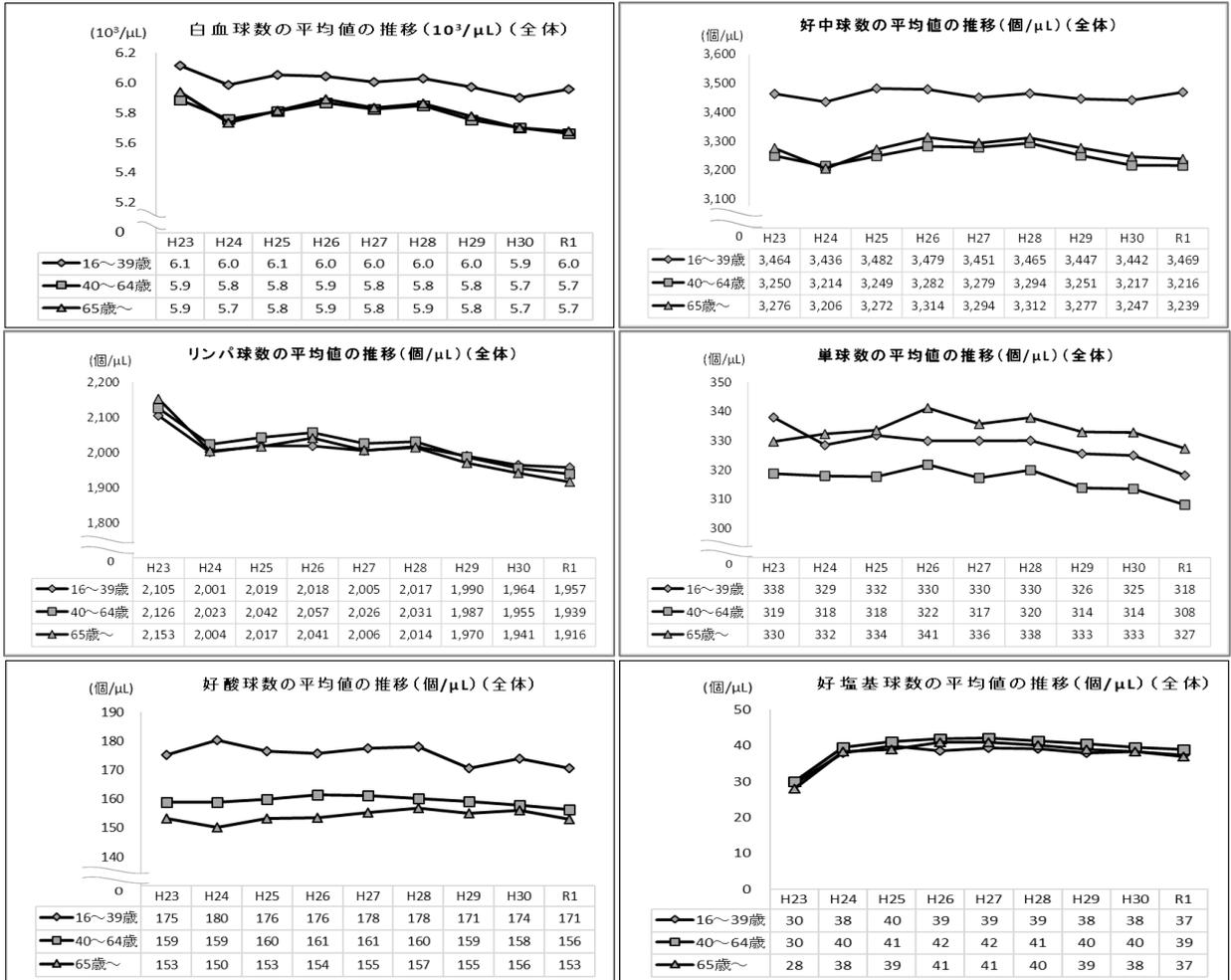
判定区分 項目	基準範囲内	軽度異常		異常		単位
		90～129	370～449	89 以下	450 以上	
血小板数	130～369	90～129	370～449	89 以下	450 以上	×10 ³ /μL

末梢血液検査（白血球数、白血球分画）

1 結果

白血球数の平均値は、全ての年齢区分で、平成 23 年度から令和元年度まで大きな変化はみられなかった。

白血球分画では、好中球数、リンパ球数、単球数および好酸球数の平均値では、全ての年齢区分において、平成 23 年度から令和元年度まで大きな変化はみられなかった。好塩基球数の平均値では、全ての年齢区分において、平成 24 年度から令和元年度にかけて大きな変化はみられなかった。



2 項目の説明（白血球数、白血球分画）

感染症や白血病などを見つける手がかりとなります。

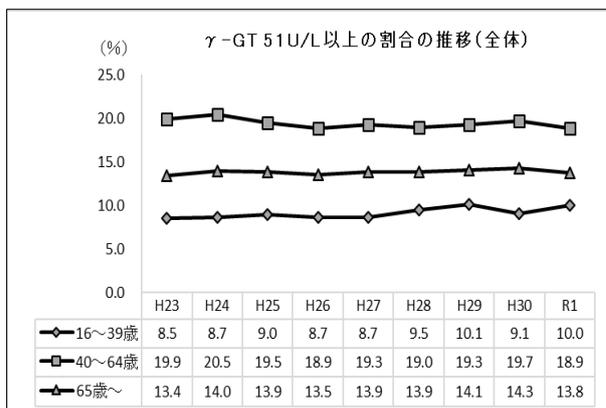
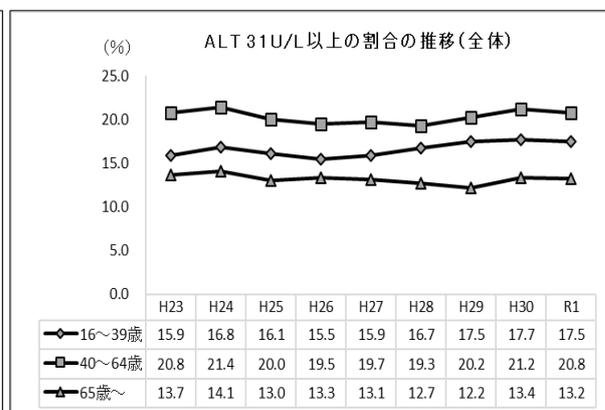
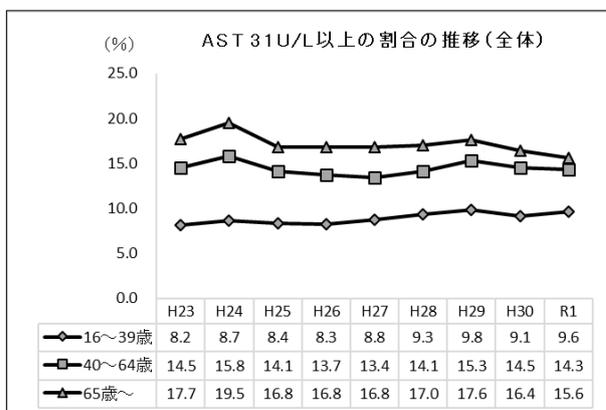
3 参考基準値（集団健診・個別健診で使用しているもの）

項目	判定区分	基準範囲内	軽度異常		異常		単位
白血球数		4.0~9.5	3.0~3.9	9.6~11.0	2.9以下	11.1以上	×10 ³ /μL
白血球分画 (参考値)	好中球	40.0~75.0					%
	リンパ球	20.0~55.0					
	単球	0~12.0					
	好酸球	0~10.0					
	好塩基球	0~3.0					

肝機能 (AST、ALT、 γ -GT)

1 結果

AST 31U/L 以上の割合、ALT 31U/L 以上の割合および γ -GT 51U/L 以上の割合は、全ての年齢区分において大きな変化はみられなかった。



2 項目の説明 (AST、ALT、 γ -GT)

肝臓の病気を見つける手がかりとなります。また、AST (GOT) は心筋梗塞を見つける手がかりにもなります。

3 参考基準値 (集団健診・個別健診で使用しているもの)

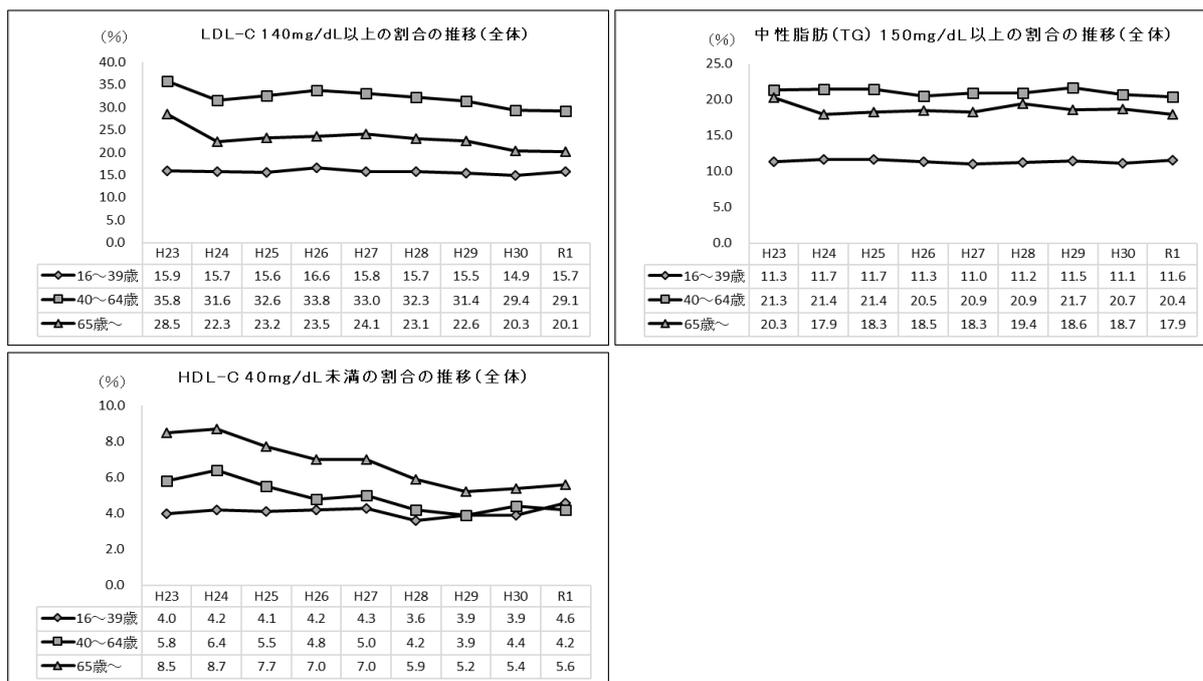
項目	判定区分	基準範囲内	軽度異常	異常	単位
AST (GOT)		30 以下	31~50	51 以上	U/L
ALT (GPT)		30 以下	31~50	51 以上	U/L
γ -GT		50 以下	51~100	101 以上	U/L

脂質 (LDL コレステロール、中性脂肪、HDL コレステロール)

1 結果

LDL-C 140mg/dL 以上の割合および中性脂肪 150mg/dL 以上の割合は、65 歳以上では平成 23 年度から平成 24 年度にかけてやや減少傾向がみられたが、それ以降は大きな変化はみられなかった。

HDL-C 40mg/dL 未満の割合は、40 歳以上で、平成 23 年度から令和元年度にかけて減少傾向がみられた。



2 項目の説明 (LDL コレステロール、中性脂肪、HDL コレステロール)

動脈硬化のなりやすさの程度をみます。

3 参考基準値 (集団健診・個別健診で使用しているもの)

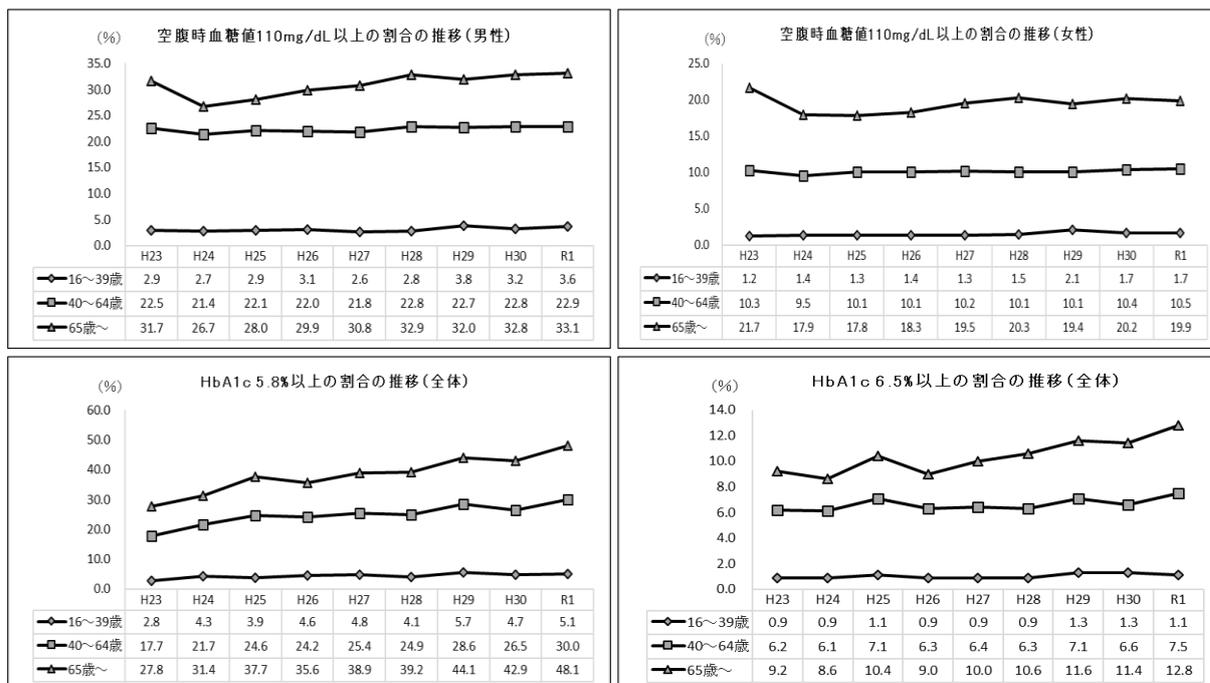
項目	判定区分			単位
	基準範囲内	軽度異常	異常	
LDL コレステロール	119 以下	120~139	140 以上	mg/dL
中性脂肪	149 以下	150~299	300 以上	mg/dL
HDL コレステロール	40 以上	35~39	34 以下	mg/dL

糖（空腹時血糖、HbA1c）

1 結果

空腹時血糖値 110mg/dL 以上の割合は、65 歳以上の男女で、平成 23 年度から平成 24 年度にかけて減少がみられたが、その後は大きな変化はみられなかった。

境界型（HbA1c5.8%以上）の割合および糖尿病型（HbA1c6.5%以上）の割合は、全ての年齢区分において平成 23 年度から令和元年度まで増加傾向がみられた。



2 項目の説明（空腹時血糖、HbA1c）

糖尿病などを見つける手がかりとなります。

3 参考基準値（集団健診・個別健診で使用しているもの）

項目	判定区分	基準範囲内	軽度異常	異常	単位
	血糖	空腹時	99 以下	100~125	
随時		139 以下	140~199	200 以上	
HbA1c		5.5 以下	5.6~6.4	6.5 以上	%

※HbA1c5.8%以上および6.5%以上は、「糖尿病治療ガイド 2020-2021」における境界型、糖尿病型の判定基準。

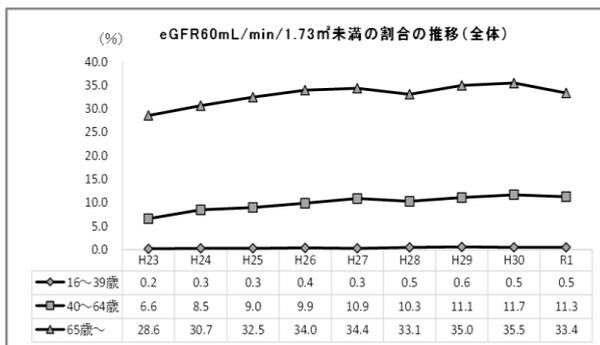
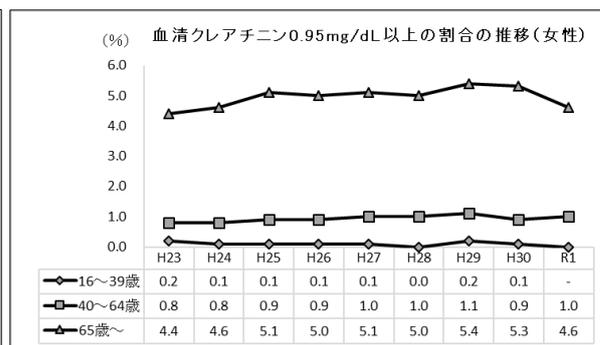
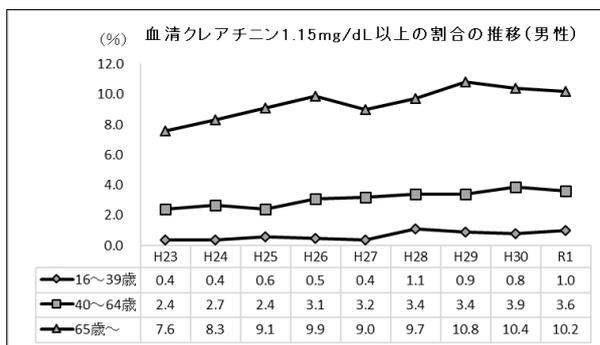
腎機能（血清クレアチニン、eGFR）

1 結果

血清クレアチニン 1.15mg/dL 以上の男性の割合は、40～64 歳では平成 23 年度から令和元年度にかけて増加傾向がみられる。65 歳以上では、平成 29 年度まで増加傾向が続き 10%を超えた後、令和元年度までその割合が続いている。

血清クレアチニン 0.95mg/dL 以上の女性の割合は、65 歳以上では平成 25 年度に 5%を超え平成 30 年度までその割合が続いていたが、令和元年度は 4.6%となっている。

eGFR60mL/min/1.73m²未満の割合は、40～64 歳、65 歳以上ともに増加傾向がみられ、特に 40～64 歳での増加の割合が大きい。



2 項目の説明（血清クレアチニン、eGFR）

腎臓の病気を見つける手がかりとなります。

3 参考基準値（集団健診・個別健診で使用しているもの）

項目	判定区分		基準範囲内	軽度異常	異常	単位
	男	女				
血清クレアチニン (酵素法)	男		0.45～1.14	1.15～1.34	1.35 以上	mg/dL
	女					
eGFR(推算糸球体濾過量)			60.0 以上	45.0～59.9	44.9 以下	mL/min./1.73m ²

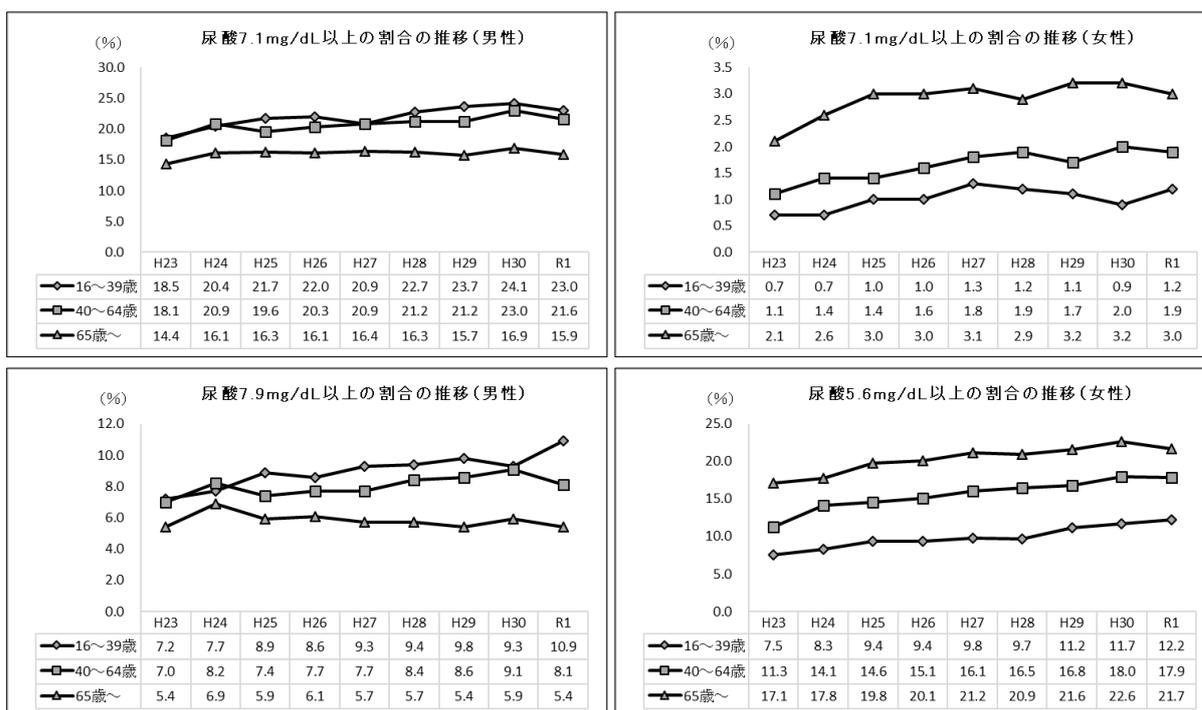
腎機能（尿酸）

1 結果

尿酸値 7.1mg/dL 以上の割合は、男性の全ての年齢区分において平成 23 年度から平成 30 年度まで増加傾向がみられたが、令和元年度にかけてはわずかに減少傾向がみられた。また、女性の全ての年齢区分において平成 23 年度から令和元年度にかけてわずかに増加傾向がみられた。

尿酸値 7.9mg/dL 以上の男性の割合は、16～39 歳、40～64 歳では、平成 23 年度から令和元年度にかけて増加傾向がみられた。

尿酸値 5.6mg/dL 以上の女性の割合は、全ての年齢区分において平成 23 年度から令和元年度にかけて増加傾向がみられた。



2 項目の説明（尿酸）

痛風などを見つける手がかりとなります。

3 参考基準値（集団健診・個別健診で使用しているもの）

項目	判定区分			
	基準範囲内	軽度異常	異常	単位
尿酸	7.0 以下	7.1～7.9	8.0 以上	mg/dL

※尿酸値 7.1mg/dL 以上は、日本痛風・核酸代謝学会作成「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン」の定義による値。

※尿酸値男性 7.9mg/dL 以上および女性 5.6mg/dL 以上は、日本臨床検査標準協議会設定共用基準範囲の上限を超える値。